



昔我の梅林も満開の花を咲かせ、
春は、もうそこまで来ています。



巴組(ともえぐみ)が やってきた!



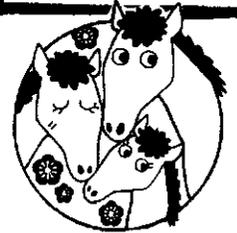
私たち「自然・馬・人の会」では、
他団体との交流活動も積極的に取り入れようとしています。
今回は、河口湖紅葉台牧場で、
和乗馬(日本式の乗馬)を研究されている巴組のみなさんが、
凛々しい勇壮でかけつけてくださいました!

INDEX

♪運営委員会からのお知らせ.....	1ページ
♪特集 巴組(ともえぐみ) 参上!!!.....	2
♪乗馬会レポート.....	4
♪お願い、私たちの活動について.....	8



土岐・運・来



大切なお知らせ

(一)二〇〇二年度の総会
が開催されます。

とき:四月二十一日(日)午後二時

ところ:小田原中央公民館 視聴覚室

二〇〇二年度の活動内容や、役員の選出(承認等)がおなわれる大切な行事です。馬には乗れませんが、是非、皆さんお集まりください。

(二)二〇〇二年度会員登録
(更新)をお願いします。

今年も一年間、是非、私たちと一緒に乗馬を楽しみながら、人の和を広げて行きましょう。一人でも多くの方の継続登録を、心から歓迎します。

★昨年、回数券を使い切れていなくても、更新をすれば、その回数券は今年もつかえます。詳しくは運営委員まで!

会報 「土岐・運・来」 第十七号
 発行 自然・馬・人の会
 発行日 二〇〇一年三月一日(日)
 只今の会員数 三十九 家族(正会員)
 二十二 家族(協力会員)

絶妙な手綱捌きをこなしながら、弓と矢を巧みに操り、一本一本を確実に決めて来る。決まるたびに、場内は惜しみない拍手と、ヤンヤンヤの大喝采が轟く。今は大の散歩コースとなっている平和な小田原城址が、一瞬かつての戦国時代にタイムスリップしたかのような、楽しい一時だった。それにしても彼女たち、「もしも生れる時代が違ったら、あるいは有名な武将になっていたかも知れない……」ふと、そんなことを思ったのは私一人だけだろうか……。

演舞が終わってからは、見ていた子供たちに飛び入りで演舞、紅鹿毛に騎乗しての流鏑馬体験をサーブス。もちろん、全手補助がつき、的の近くに停止してのお試し版ではあるが、それでも終わった子供たちは、満足げな笑顔を満面に浮かべての大喜びだった。未来の武将もまた、頼もしい限りである。



ここで編者は、実際に演舞を披露して下さいた飯島さんに、突撃インタビューを試みました。勇ましい演舞からおつかない人かと、恐る恐る近づいたのですが、馬から下りると別人のような気さくな方で、素人の質問にも笑顔で答えて下さいました。

——— どんなどころで活動されているんですか？

紅葉台牧場は、西湖の南側、富士山麓の鳴沢村というところにあります。馬はすべて和馬で木曾馬やどさんこなど、全部で35、6頭います。その紅葉台牧場のなかで巴組は活動をしています。因みに富士山の山頂も、この鳴沢村なんですよ。

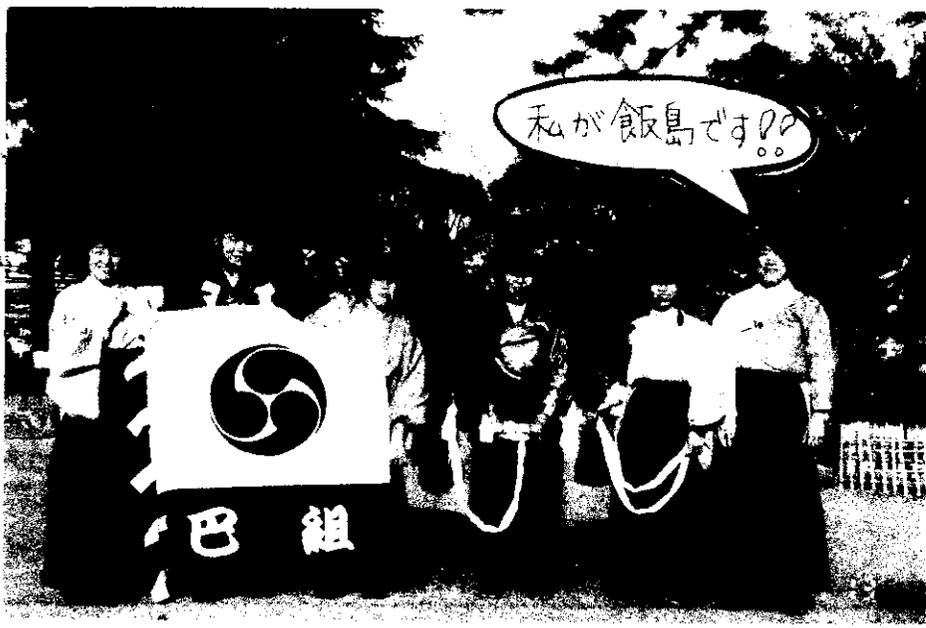
——— 和乗馬については、どのように調べられるのですか？

和乗馬については、意外に文献等の資料が少なく苦労することがあります。結局、絵巻物や屏風絵などがとても有効な参考資料となります。また、現存する馬具——和鞍、和鐙（あぶみ）など——から直接、研究をすることも少なくありません。実際の道具を目の前にして、「これはどのように使われたのか？」と考えたり、試したりしてみる訳です。

——— 昔の馬具はどうやって手に入れるのですか？

骨董屋で手に入れることができます。でも安

いものでも、一つが十五万とか、二十万という額になってしまいます。高額でしょ。



現代の乗馬とは、やっぱり違うので

すか？

違います。例えば鑑(あぶみ)ですが、そこが平たくなっています。見た感じではこのほうが、足のそこが密着して安定しそうに思えますが、実際には、重心が移動してしまう為、バランスの取り方がとても難しいのです。

—、和乗馬などが行われているのは
— どういうところですか？

やはり、各地のイベントなどで行われる流鏝馬(やぶさめ)などが有名でしょう。それらは、いずれも神事として行われます。—
— そう言えば、曾我の梅祭でもやっていますね！(編集部)

— 流派とかあるのですか？

武田流、小笠原流などが有名ですね。現在では和乗馬自体が、神事等として行われることが多いので、流儀の扱いには神経を使いますね。勝手なことではできませんし……(笑)

巴組の皆さん、ありがとうございました。
— 次回の交流を、心から楽しみにしています。



十二月九日の乗馬会から



参加人数

会員

三十五名

当日受付

一三二名

ボランティア

三十名

十一月の乗馬会が雨天のために中止になってしまったので、二ヶ月ぶりの乗馬会となりました。

その日は歴史見聞館前の広場でイベントがあり、昭和三十年代の遊びを体験できたり、「おさるポリン」がでていたりといつものより広場がにぎわっていました。そのため当日の騎乗者が多く、長い列をつくっていました。短い時間の中でも名前をきくことからはじめ「馬に乗ったことある？」など何気ない会話から緊張がほぐけ、少しずつ笑顔になっていく様子を見ることができました。

プログラムの方には、こうめのこどものこなつが参加し、こうめの後について歩いていく姿やお乳を飲んでる様子など、どれをとってもかわいくてその日の人気者でした。

ステーション近くにあつたお絵かきコーナーでは、プログラムの待ち時間を利用してお絵かきを楽しんでいる様子もみられました。馬に乗っている時間はもちろん待っている時間も交流の一つにつながると思うので、「自然・馬・人の会」だからこそできるふれあいの場を沢山つくっていききたいと思います。(ウッキー)

一月十三日の乗馬会から



参加人数

会員

三十六名

当日受付

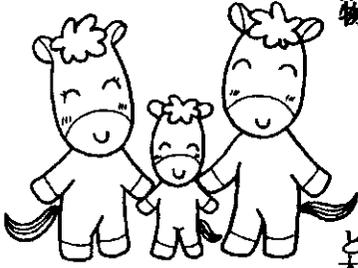
五十二名

ボランティア

四十六名

生まれて初めてボランティアというものに参加した。今までそのようなことに参加する機会も気持ちもなかった。それがたまたま帰省していた実家で「明日、乗馬会があるのだけれどボランティアで参加してみない？」という母の一言で初めてのボランティア体験となった。何をやるのかもはっきりとした認識もないままに「まあ、明日は何の予定もなくヒマだからいいか」という軽い気持ちで参加したというのが実情であった。

しかし、あの空間に立つてみると馬にむじやきに接している子どもたちの姿はとても強い印象で自分に迫ってきて、自分にもあんな時代もあったなあと、少しうらやましくも感じ何か励まされる思いもした。また、子どもと動物



と大人と公園という

空間は普段の

生活の中で

は無縁の

もので、

穏やかな

いい時間

が流れて

いること



こに自分が存在していることに不思議な感情がわいてきて信じられない思いがした。

初めてのボランティアを体験して、人のやさしさ、助け合う気持ちというものを強く感じた。また、馬に初めて接して他の動物にはない、何か不思議な魅力を感じ癒される思いがした。馬の会を通して、心の温かみを身近に感じ、ぜひまた参加したいと思った。

(村山一利)

二月十三日の乗馬会から



参加人数

会員

三十三名

当日受付

七十六名

ボランティア

三十一名

2月乗馬会と聞いて、「自然・馬・人の会」では、寒い2月と暑い8月に乗馬会はなかったはず、と思う人もいるかもしれませんが、去年雨でできなかった時の代わりに開いた乗馬会でした。そして、小雪が舞うことまでは予想していませんでしたが、思ったとおりの寒い一日でした。

普段私はプログラム乗馬担当として馬と一緒に歩いたり走ったりの一日で、時間が経つにつれ身体が温まるのですが、今回は高橋さんが馬をたくさん連れてきてくれたので急遽ボランティア研修をすることになり、あまり身体を動かさない一日でしたので、いつも寒さ暑さをじっと我慢しながら受付などをしていてくれる人達のつらさが身にしみて判りました。乗馬担当以外のみなさん、いつもありがとうございます。



研修なんてやってたの？という人もいると思いますが、金太郎・愛子・ヤギの二頭二人で、中村さんがプログラム・当日乗馬から一人づつ間引いてきてくれたヴォランティアの人達に即席研修をしました。急に研修に行けと言われて、戸惑った人も多かったでしょうし、なぜ私が研修をするのかと思った人もいたことでしょう。研修をするほうも受けるほうも、お互いに突然のことですし、当然プログラム・当日が優先ですから一人当たりの時間もまちまちで、研修を受ける側の希望なども聞けず、内容もその場の思いつきだったので、もし次の機会があったら、もっと良い研修ができるようにしたいと思います。

これからも、みんなで一緒にやる研修のほかに、時間と人数に余裕があれば、今回のような個人または少人数での研修の機会をつくり、一人一人のやりたいこと知りたいことの研修ができたらいいなと思いましたが、みなさんはどう思いますか？そして、馬のことを知れば知るほど馬と付き合うのが楽しくなると思うのですが、プログラム乗馬の時間内ではきちんと伝えられないことも多いので、「研修（乗らない乗馬）」はヴォランティアだけでなく乗り手にとってもやる価値があるのではないかと思いましたが、皆さんはどう思いますか？

また、ヴォランティアは、年齢とか社会的地位などにとらわれず、それぞれの持ち味を生かしてこそ、みんなでやっている意味がある

るので、今回も、馬の曳きかたについては、ほとんど愛子さんにやってもらい、とても助かりました。みんなの知りたいこと・やりたいことを聞き、自薦他薦含めて、みんなの教えられること・できることを聞いて、お互いに教えたり教わったりする双方向の研修ができたのも嬉しいのではないかと思います。楽しく、安全に、長く、乗馬会を続けていくために、みなさんの思っていることを、もつともつと聞きたいと思っています。会場で、ヒゲ面の怖い？顔と無愛想な態度を気にしないで声を掛けてください。会場で声を掛けなくなったなら、手紙・ファクス・メール、なんでもいいですから声を聞かせてください。

(ヤギさん)

※編集部より

ヤギさんの連絡先については、「自然・馬・人の会」事務局、もしくは運営委員までお問合せくださいネ！（最終ページ参照）

運営委員会から…

——ご協力ありがとうございました——

次の方々が協賛金、及び品物の提供等でご協力くださいました。（順不同）

- 佐伯直己様、岸祐子様、石内正宣様、中村隆次様、西野美恵子様、中村章彦様、竹村弘子様、石川寛明様、久保寺強様、関野政一様、八重樫文子様、八重樫茂子様、木下淳司様、木下由佳様、村山ますみ様、二宮一夫様、石

- 川寛明様、大竹美智子様、国見佳充様、野坂哲也様、石坂航太様、石内正宣様、北村治様

※右にご紹介した方々は、昨年十一月以降、これまでにご提供頂いた方です。お一人、お名前をお伺いできなかった方がいらつしやいます。心当たりの方は、中村までお知らせください。

——お願い——

①フリーマーケット出品のご協力

正会員、安断さんのご協力で、乗馬会当日以外のフリーマーケットにも参加させて頂いています。ご家庭に眠っている不用品等がありましたら、是非、ご協力をお願いします。ご連絡は中村まで。

フリーマーケットは、毎月のようにありますので、いつでも受け付けております。

②受付名簿にお名前を！

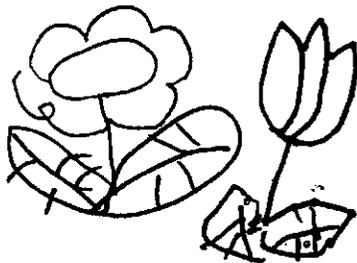
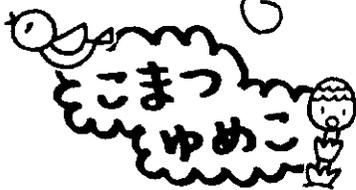
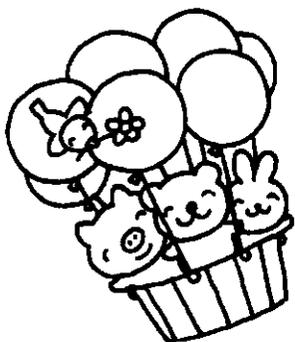
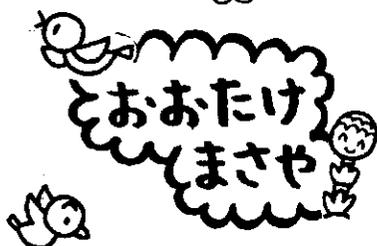
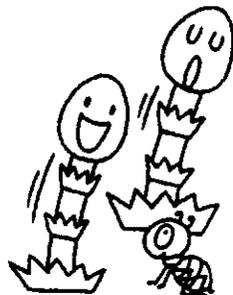
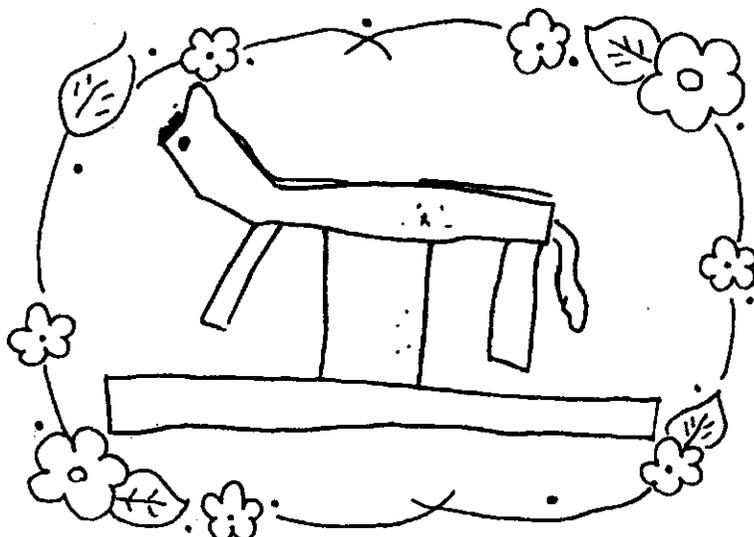
先月より、ご提供を頂いた方の「提供品受付名簿」を用意してあります。ご提供いただきましたら、忘れずにお名前を記入してください。

——乗馬会開催日のお知らせ——

四月七日（日）
五月十二日（日）の予定です。



乗馬会場に出ている机に、お気づきになりましたか？
机の上には、画用紙と、色々なペンが用意されています。
これは、乗馬会の合間に、だ——い好きな馬の絵を、
たくさん、お友達に描いていただくためです。ほんの一部で
すが、子供たちの楽しい力作をご紹介します！



まだ、「描いたことな〜い！」という子は、どんどん参加してね。
勿論、大人のにわかイラストレーターも大歓迎です♪

「自然・馬・人の会」って？
——こんな会です——

馬がいる。子供がいて、おばあさん、おじいさんがいる。車椅子で来た人が背筋を伸ばして馬に乗っている。仲間とやっけて来てサイドウオーカーをやっている若者が声をかけている。馬が駆け出すと歓声があがる。笑顔が広がる。補装具を足につけた子が、ここで出会った友だちとボール遊びをしている。取りそこなつて転がったボールを一緒に来たお父さんお母さんがあわてて取りにいく。豚汁のみその香りが、ぷーんとただよう。昼食を囲むテーブルの向こうで、アサラト、カリンバなどの楽器を鳴らして遊んでいる人たちがいる。本を読んでくれる人のまわりで子供が一心に耳を傾ける。

これが小田原の乗馬会の風景です。乗馬会には誰もが参加できます。誰もが同じ場所でお互いに関わりを持つたり持たなかつたりしながら、それでも目のすみにそれぞれを感じながら、それぞれの豊かな時を過ごしている。そして参加する人はみんなそれぞれに楽しんでます。そのこと——みんな一緒ということですが、今の時代にはとても大切な事だと思っております。そして、みんな一緒ということからどんな発想や出来事が生まれてくるのか、とても楽しみです。本当にこれから何か動き出していきそうな気がします。あなたもそれをわたしたちと一緒に体験してみませんか。

★ 定例乗馬会

・毎月一回(年十回)二月、八月はお休み
小田原城址公園内歴史見聞館東側にて
・プログラム乗馬



個人プログラムに合わせ仲間と共に継続して、楽しみながら乗馬技術を習得して行きます。
騎乗料：一、〇〇〇円(正会員)
一、五〇〇円(非正会員)

・当日乗り

乗馬が初めての方でも気軽に乗馬を体験できます(どなたでも)
一周引き馬料……五〇〇円

★ 出張乗馬会

ご希望のあった保育園、幼稚園に馬を持込んでの乗馬会をコーディネートしております。お申し込み、ご相談は代表まで。

メンバー・資金金庫

★ 正会員

・家族単位で年会費一〇、〇〇〇円(五回分の回数券を含む) 四月が切り替えです。
・会費は通信費・事務費・印刷費 馬借代の補助等に使われます。

・会報(年四回)・乗馬会日程をお届けします。

・ご家族体験乗馬券を差し上げます。(乗馬会参加時)

★ 協力会員

・長期的にボランティアとしてお手伝いをお願いできる方を、協力会員として登録させていただきます。(年会費二千円)
・乗馬会日程をお届けします。都合がよい日に申し込んで下さい。

・仕事内容：馬を引く、馬に乗る人のサポート、受付・食事作り・テント設置など。

★ 運営委員会

・各会員の中より自主参加で構成。
・役割分担をして会の運営に当たっています。

★ 協賛会員

・この会を経済的に応援して頂いています。
・協賛金：一〇三、〇〇〇円(会の運営費 馬具の購入などに使わせて頂きます)

小田原でもっと身近にもっと楽しく自然と馬とがふれあい集えるように、広く仲間を募集しています。一緒に楽しみませんか？

お問い合わせ

〒250-0045
小田原市城山 1-3-22
「自然・馬・人の会」代表
桜井 広利
TEL : 0465-32-1308
FAX : 0465-32-1332
振込先
郵便振替口座 00270-4-79944
「自然・馬・人の会」桜井広利